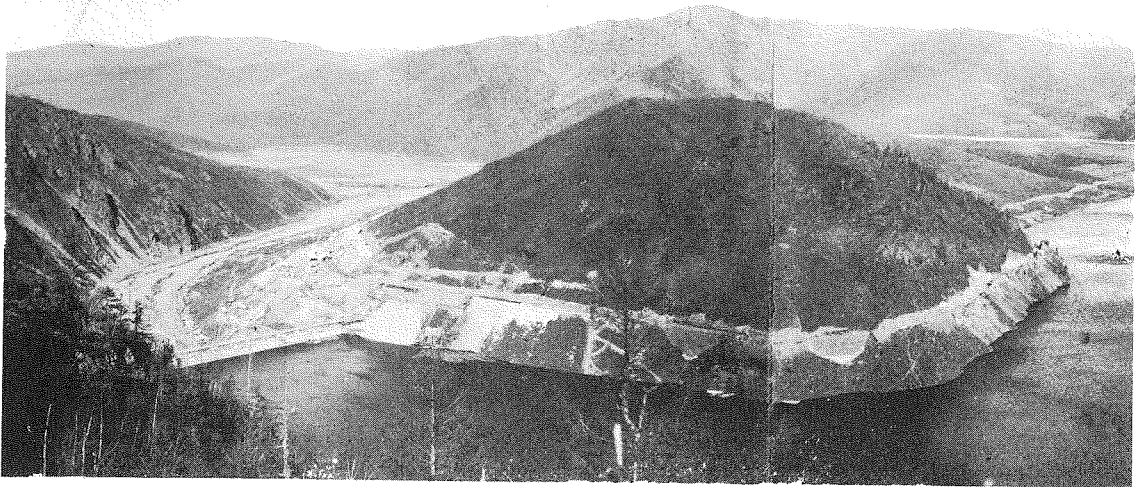
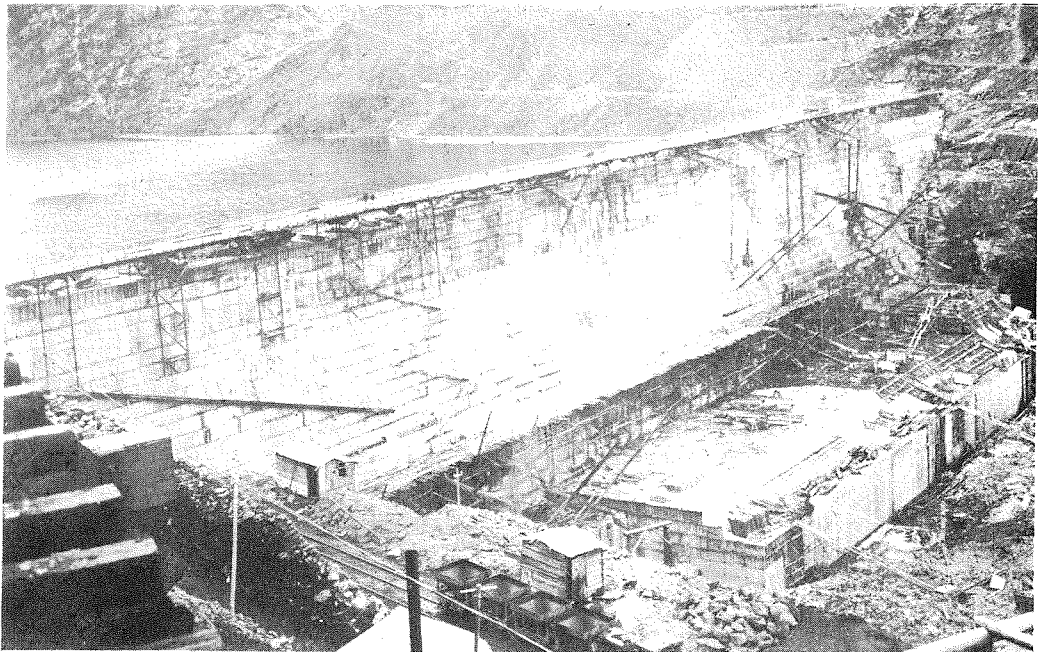


世界的に知られたる赴戦江水力發電第一期

鴨綠江の一支流たる赴戦江の水を、高さ 260 尺、長さ 1,300 尺の堰堤を以て堰止め、240 億立方尺の水を湛え、7 里の壓力隧道を通じて日本海側に流下せしめ、3,350 餘尺の落差を利用して、之を動力化せんとする赴戦江水力發電工事も爰に第一期工事完成し近く、6 萬キロの送電を開始せん



(第1圖) 貯水池下流部 (イ) 左方に見ゆるが堰堤、(ロ)を参照 (ク) 前面水面近くの切取は砂利運搬鐵道線路、復々6哩、21噸機關車4輛を配備す。(ハ) 山腹の白線は附替道、總延長約10里



(第2圖) 堰堤 (イ) 前高段は完成せる第一期堰堤、高さ岩盤上175尺、長さ堤頂にて180間、混凝土量2萬5千立坪、(ロ) 後低段は工事中の第二期堰堤基礎、高さ第一期を合せ260尺、長さ堤頂にて220間、混凝土量第一期を含み8萬3千立坪、

工事完成の近況 朝鮮水電株式會社工務部長 久保田 豊

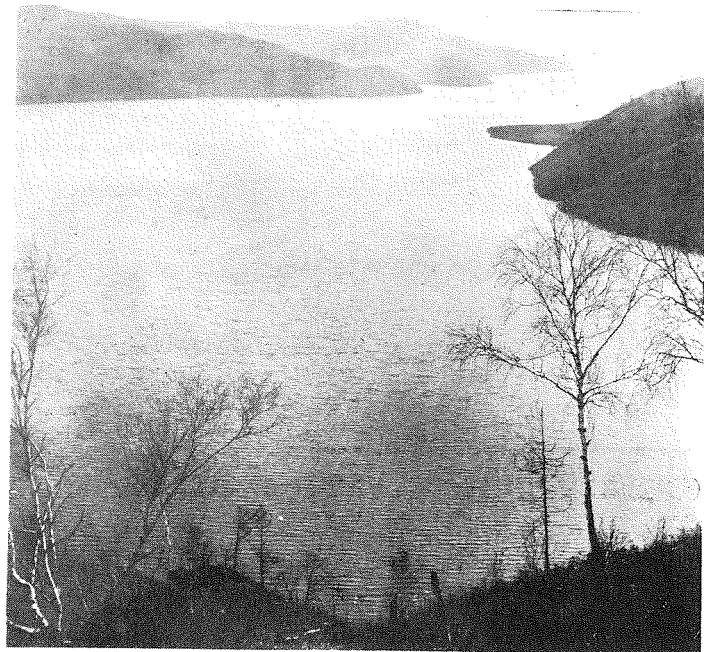
とするに至つた。工事並に發電所設備の概要を以下寫眞に就て説明せん。因に本工事の總工事費は5千3百萬圓にして、内純工費4千8百萬圓、現在迄に投ぜし建設費は約4千萬圓にして、本年末を以て全工事完成の豫定である。



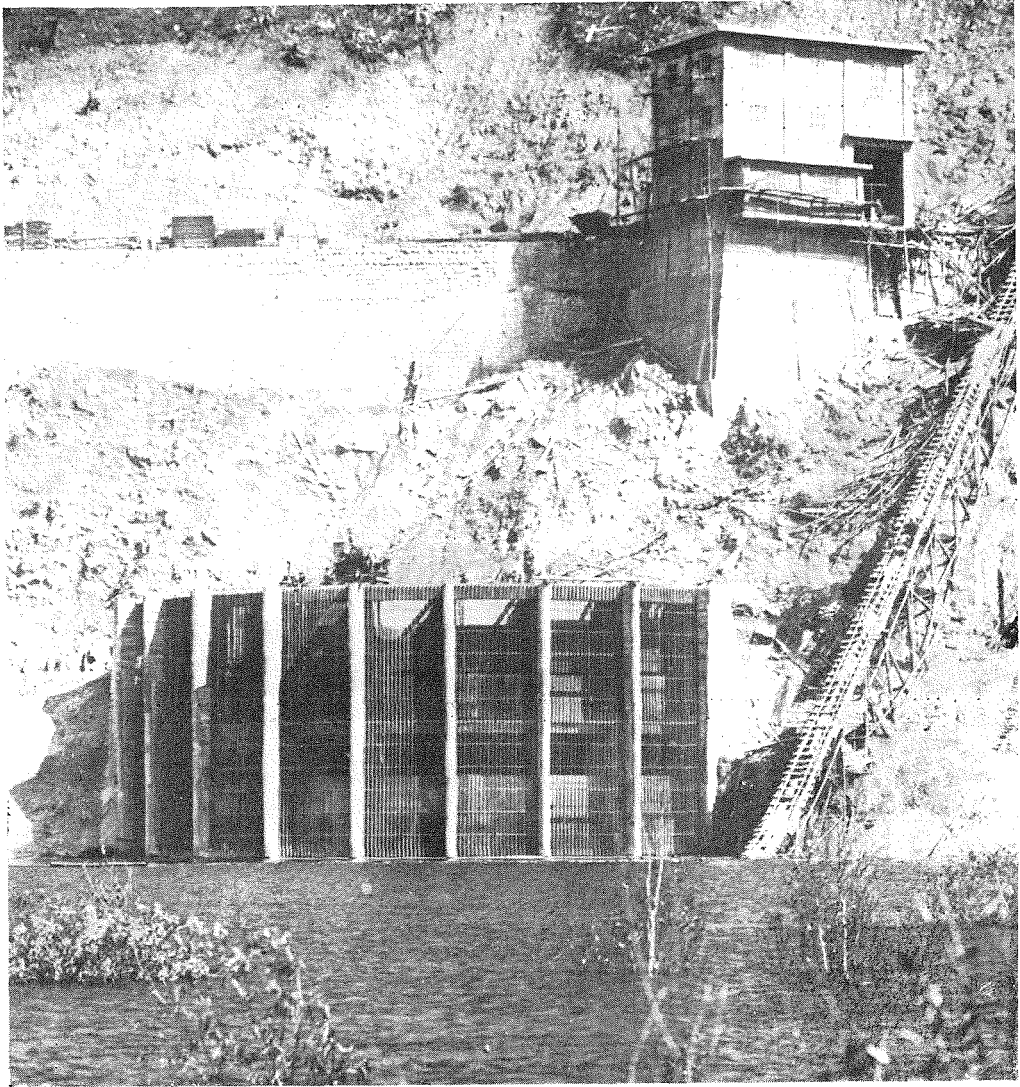
(ニ) 右方木柱塔は索道、索道延長9哩半、一日の輸送能力200噸 (ホ) 取入口は寫眞右端より2里の上流にあり。

計	第一發電所	第二發電所	第三發電所	發電所名	發電所位置	水路延長	有效落差	發電力
	同	同	同	永高面松興里	永高面松興里	一四、六四二 ^間	二、三三二 ^尺	一一二六、〇〇〇 ^{キロワット}
	東興里	新豊里	三、三五三	新豊里	新豊里	三、一八一	七一一	四二、〇〇〇
			三、〇〇九					一八、〇〇〇
			二、一七六					一八六、〇〇〇

發電所概要



(第3圖) 貯水池中央部の景 中央部より上流を望む、○印附近取入口なり。(イ) 貯水地面積1.5方里 (ロ) 貯水地周圍19.5里 (ハ) 貯水量240億立方尺 (ニ) 有效貯水量170億立方尺 (ホ) 最大水深240尺 (ヘ) 有效水深90尺 (ト) 最高水面、海拔4千39尺



(第4圖) 取入口(敷上約5尺冠水せる所)
呑口は土砂流入の恐なき様地盤上17尺の個
所に敷を設け喇叭形とす、

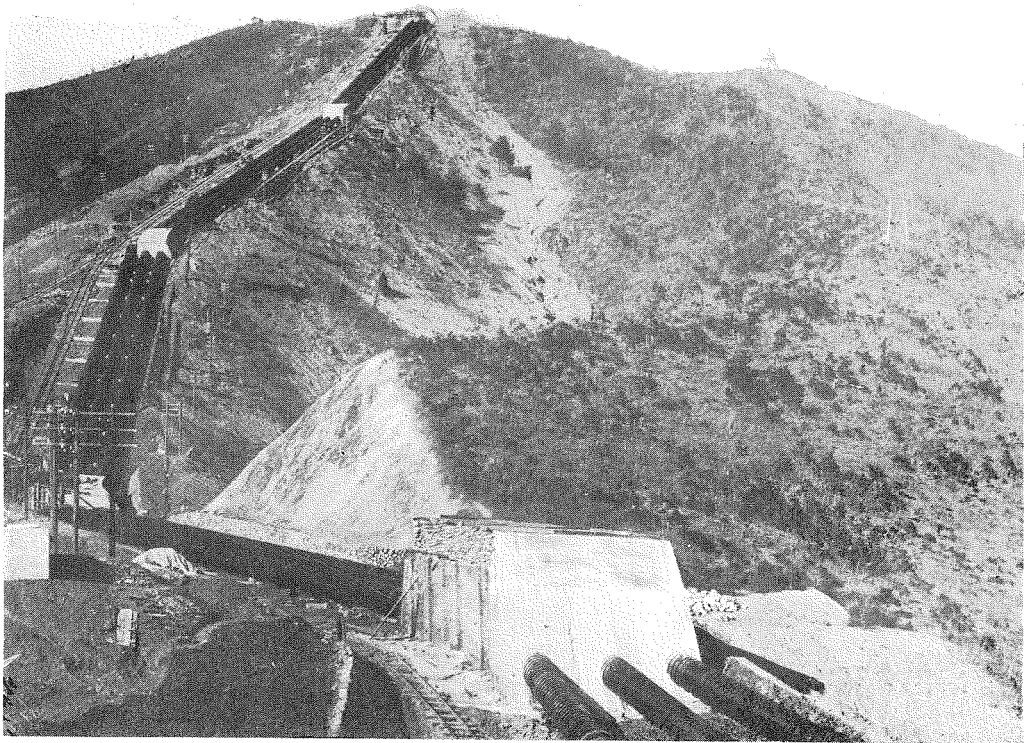
流入速度6尺毎秒に過ぎず、ゲートを設置
せる水門筒は寫眞に見ゆる如く岩盤を穿鑿せ
る豎坑中に施設し、主副二様のゲートを設け
喇叭形の前面に可動スクリーン二組を設備す



(第5圖) 隧道グラウチング施工中

第一水路導水路は全部隧道にして延長實に14,650間(約7里弱)、全部混凝土卷立式水壓隧道にして最高水壓200尺なり。

勾配千五百分の一、形狀は馬蹄型及圓型にして捲立は個所により鐵筋混凝土とせり。



(第6圖) 下部鐵管路

表紙寫眞説明(中部鐵管路。ウエルド管の個所、6.7.8號ブロック附近)

右方二線は完成せる第一期工事

左方一線は組立中の第二期工事

最左方に今一線を第二期に施工するものにして中央上方に見ゆるは組立用特殊移動クレーンなり。

第一水路の鐵管路は全延長9,580尺

内620尺は内徑10尺3寸の鐵管隧道にして隧道口に四分岐管を設け、四分岐管の終端にヴァルブ室を設置す。

鐵管一本に付各二個のバターフライヴァルブを設備し、メインヴァルブは發電所配電盤より直接制御し得る装置とし、且管内流速の變化に依り自動的閉鎖の装置をも具備せり。

(第6圖) 下部鐵管路(バンデッド管の個所15.16.17.18.19ブロック附近)

ヴァルブ室以下の鐵管延長8,700尺、内徑5尺33より3尺75に至る。

アンカーブロック數20個、區間最長600尺
混凝土總量2,500立坪なり。

上部はウエルド管(表紙参照)、下部はバンデッド管を使用せり。

鐵管全重量12,000噸にしてポーランド國フエルウム會社製なり。



(第7圖) 鐵管路及第一發電所。○印附近サージタンク。×××印、嶺上への貨物運搬用鋼索鐵道。發電所の右方山の端に見ゆるは屋外變電所なり。

發電所、鐵筋混凝土建にして奥行9間、間口40間半、高10間半の發電機室と其に附屬せる配電盤室其他を備ふ。

出力、144,000 K.V.A. 容量36,000 K.V.A. 發電機4臺を設備す、内2臺は既に完成し目下運轉中なり、殘2臺は目下据付中にして本年夏迄には運轉開始の見込なり。

一基容量より見るも發電所出力より謂ふも東洋に於ける既設水力發電所の此等を遙かに凌駕し世界に於ても類例少き偉觀なり。